

夏休み親子環境学習講座を開催。209名の“うどん県 エコキッズ”が誕生！（環境レポート）

香川県では、子どもから大人まで、みんなで地域の環境を楽しく学んでいただくため、夏休みの期間を利用して、「うどん発電」「緑のカーテン」「里海」「豊島・直島環境体験ツアー」の4つのテーマ、計7回の親子環境学習講座を開催しました。

夏休みの自由研究にピッタリのこの企画に定員を大幅に上回る約600組の応募があり、多数の応募者の中から選ばれた155組の小学生親子が熱心に、楽しく受講し、受講終了後には、環境の大切さをみんなに伝えていく209名の“うどん県 エコキッズ”が誕生しました。

ここではコース①のうどんまるごと生かし隊の講座の様子を紹介します。

コース① うどんまるごと生かし隊 【講師 高松市立一宮小学校 光村拓也先生ほか】

まずは、講師のご紹介。ご協力いただいたのは、現役の小学校の先生を中心に、今話題の「うどんまるごと循環プロジェクト」の担当者、さらには、香川大学教育学部の学生さん。子どもたちとのコミュニケーションや分かりやすい説明など、さすがはプロの先生。テレビカメラに少し緊張気味の参加児童の心をすぐにほぐして、テンポよく授業が進んでいきます。



“うどん県”として美味しいうどんが手軽に食べられる反面、時間が経って廃棄されてしまう大量のうどん。「廃棄される理由は?」「廃棄される量は?」から見えてくる私たちの生活と「もったいないから何かに使えないか?」という企業の思いを結びつけた「うどんまるごと循環プロジェクト」を分かりやすく説明します。

「うどんからエタノールが作られる!」実際こうどんからできたエタノールに火をつける実験のほか、エタノールを作った残りかすやそのかすから作った澱粉の実物も紹介され、前に駆け寄ったり、実際に手に取って見たり匂いを嗅いでみたりと、それぞれが熱心に取り組む姿が印象的でした。



「うどんまるごと循環プロジェクト」の担当者の方が行った“うどんまるごとクイズ”では、まだ食べられるのに捨てられている食品ロスの問題や世界の食料事情などが紹介されました。

最後に、うどんからできた澱粉を県庁の緑のカーテンにやった後、先生やプロジェクト担当者へのインタビュータイム。自分たちが取り組む姿を写真に収めながら、それぞれが自分たちなりの自由研究作りを進めていきました。



講座終了後、環境森林部次長から児童全員に、“うどん県 エコキッズ認定証”が交付されました。これからは、うどん循環の取組みや環境の大切さをみんなに伝えていってほしいと思います。

～参加者のアンケート意見より～

(子ども)

「今までうどんを食べた後にどうなるか考えたことがなかったので、とても心に残りました。面白く教えてくれたので、とても分かりやすかったです。」

「循環や食品ロスがよく分かったし、食べ物をむだに捨てないということを知りました。

食べ物でも物でも頭でよく考えると、他の物などにリサイクルできることを知りました。」

(保護者からは)

「光村先生のお話が、ユーモアたっぷりで、子供も「面白かった」と言っておりました。大好きなうどんが環境保全に役立つとは、香川県民にとって喜ばしいことだと思います。みなさん、とても親切に対応していただきありがとうございました。」

「いつも食べているうどんがいろいろなものに変化するのには子供だけでなく大人も感心することばかりでした。」

「うどんを通して、環境に目が向くとは思わなかったですが、受講してうどんだけでなく、食べ物からエネルギーの話にまで興味を感じることができてよかったです。」

この事業は、全国モーターボート競走施行者協議会からの拠出金を受けて実施したものです。